

臨川縣志卷之二





2220.

三十二番 律

悔心

心

之律

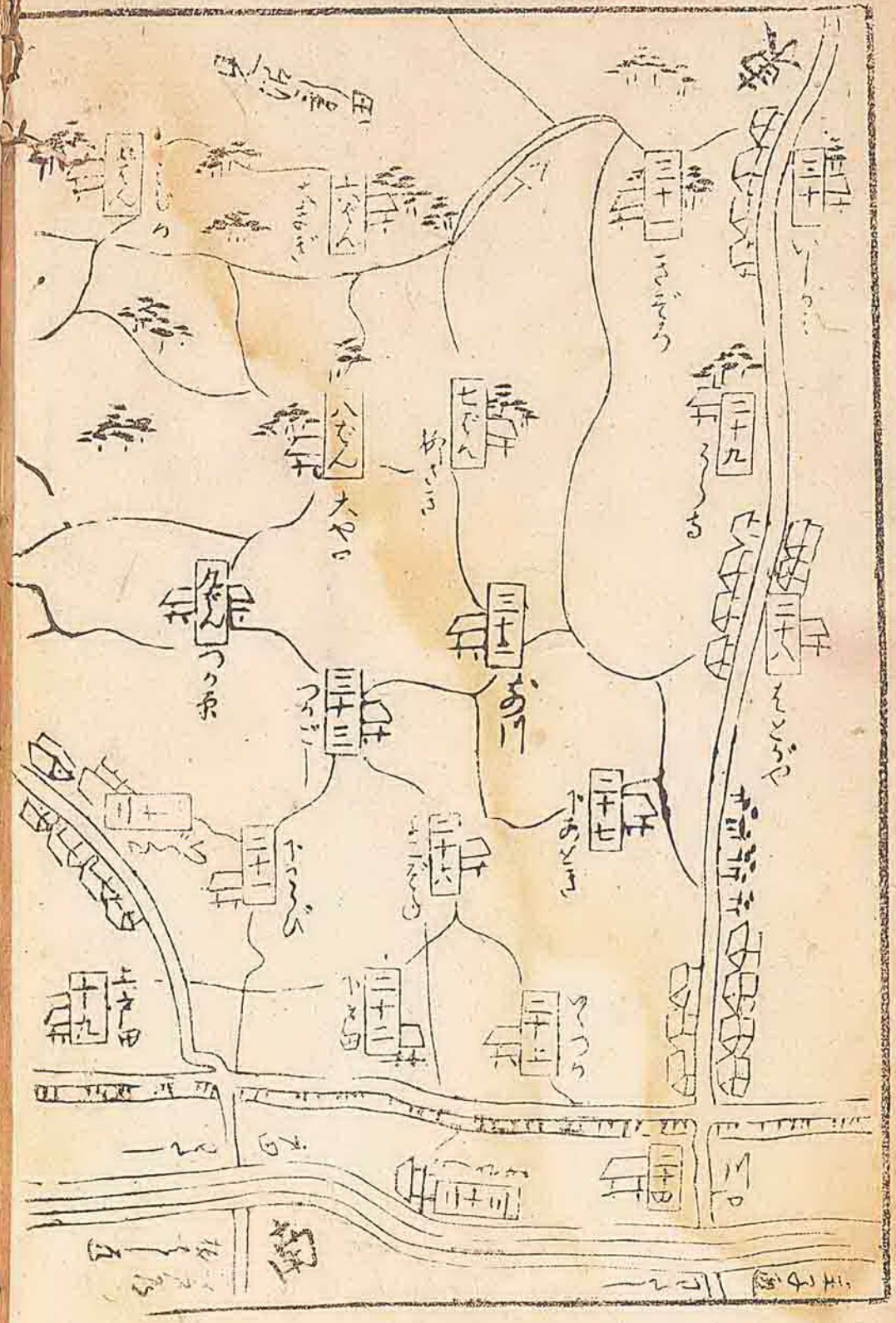
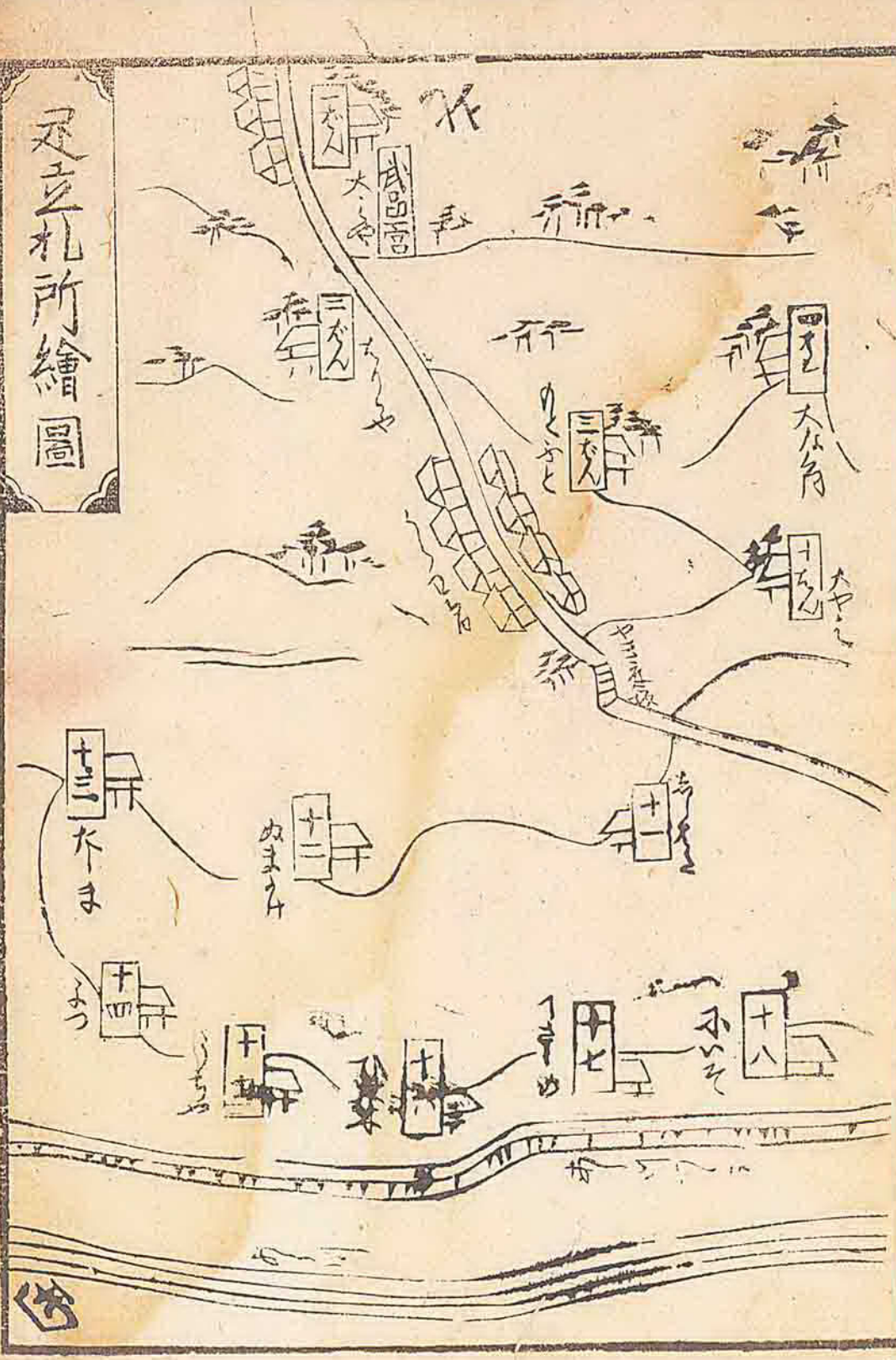
悔心

心

心



足立札所繪圖



足立坂東起本開山記

當國三立坂東三十三町のふぶ町をわいきーがえまのりわめり

らんせーの當所高橋源太郎昌教と申てまのげんか

門へすまら源明院字の休山とくうーそあまねく大悲の

ぬぐもけうけらんあんこのむの告ふよつてまのあられ

聖地をあうそむいげんわらこまきーまじ尊像をまのまらう

三十三郷へあぶ町御ひりめえいをうをぶにらうふやく

まんあよぶあんまのれのちやうとまのここと年むさー

往昔八幡太郎義家公の三男式部太輔源義國公の末葉

荒川左衛門尉源俊公卿とくして武洲藁火今、此の御要書

をりまえ當國小威をまひけららんあくのあせのこく相別

小田原の城主北條左京大夫平氏綱と足利家とりのせん

おふひそのとらえあぶらハクーまじり郷あわーかけけい

しきふとら御臺所へ中山道深谷在木部彈正殿のまくぢよ

ふ天正三年乙亥正月廿日ぶーまらびのえうがひをーま

らんー下総國あうのぶいおかりそ北條家とくひあうく

再三日つひーあうくぐーわめんうらあうあうがそのまらび

のえうぐいーまのえ城内をうーまらあう小御臺八木部殿

内御とまひそりあ女一人とあうひ上州榛名山まら

三世の湖水(かん)の御あづめさせしむひ由いけぬとあり

ぬむしよりいひよふしつるまきぞらび塚ツツミ越おひやうまふと

あしむるの法名を龍躰院リウタマノイノとありと今なき所の是よりそ

いらふぞんせりいゑのこらうどうりくく入むちたうら

くの身とありおんぞん入ふらぶるといひしりあり

あり家臣川島三郎左門高橋九郎左門塚越村おびりツツミます

いまおんぞんぞうぞうて分裔ぶんえきのしり高橋源太郎ツツミ休山ツツミの

いゑの技裔ぎえきありそむくあまぞんせかんがなりいゑぞんぞうづの

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

いゑいゑとくまりものぞんぞうれゆいをたのひよそまのりあり

の御加護ありとしりくゝあんどくまもあめいトぞん
 ちりるんゝもかゝるゝはよりのりたてまつつてがまゝ
 きあゝゝて家の看經佛とまゝのけらまそんまゝ
 きんゝたてまつり老後よ紙のがれてまゝらゝゝ
 ちり八十有余とてあゝあんとまをれより代々あん
 トたてまつりそのまゝと半七郎正守多分世せんのらま
 まらかり此トやうゝ内匠頭昌勝公の家君まつりえ
 とたあゝの瑞夢ふ南方紫雲の中より童子一人
 のらゝれりまをれあんとがらゝあんとりの
 者經佛とまゝあれま北のまゝあゝりて伏見のまん

れいそとあんとゝゝゝ郷あゝその地ふまゝあゝらるゝ
 りぐくふのりゝゝもあんどがやゝあゝあゝあゝ
 まのりゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 了急耳中あゝのらゝ髪鬘とてあゝあゝあゝあゝ半七郎まゝい
 あゝいゝをねゝゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 右の郷をこつとれどもうゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 樽正町あゝ大崎三郎兵衛池田屋権兵衛とゝいゝあゝあゝ
 當じらあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 たいめんゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 稻荷大明神ハじりゝゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

くまのあぐはあやめん京都ありそのまへにうつやせしとに
あつげきさうじりらんとうふげさうしとあのおふ法華經
一万部をうづめ經づつに受しをらんがうしとて
まひりまつて當社を經塚山とて起本をさうりらねが
半七郎歡喜しそれとてかたがね郷まうのそだをんざう
をあらうとてまらんと紙のいせ兩人かりがてとて
より別當定正寺現住法印日英（そだと紙つと日英と病
えろく
て元禄十六癸未年秋八月當寺（そんざうをむかへてま
がらま
り佛間のうしとていゝのんちとてなせまりとていとに因（え
縁との不可思議のそだとのらふおすび侍らんや著

あめら河らとて二世安樂をさねんしとてまのうせいげん
あうしとてまをえんざうあえんそうつおほあんがえん
よもあまひらるやあめれどもとていつづれに御堂
さねし紙るげとらうあやまんあぞのそあんがと
とのがをすめすんしの助力をあひええたりとて
法あんがとて小堂をさうりてあまが月くやしとて
まひりあまえんあやめとてあまが紙る恭敬しとてまの尊像の
ひうりあましとてあめい室永二乙酉年二月高橋源太郎休山
がうぜんまじとてあめい童子一人紫雲の中よりあうりれ我
しとて當所正觀世音より比度老若男女あぞのそ御堂を

あんりふいさくしれ佛久ふりまひるんじ三十三郷一札所をり
 うそむバ末世まろせのいり老若男女らうおややんなんあふぐはとあがく衆生しゆじやうといふは
 まらびれたいといんやとてとえうせぬかかんし急耳中きゆうじちゆうのあり夢
 こゝろのありいさきしれり吉且きちかつふり一人者ひとりやともあいて村
 里さと聖場せいばうは寺院佛閣をくがむさうり三十三所さんじさんじよへあふあふ河の
 えんせも元身もとみはるさうりげあれひとえふらんせあん
 がさうりのめうちうりたゆ急不當山きゆうふたうざんをうさうちあふあふ
 起本きほんのゆ急さうり

別當

定正寺

安永四乙未年仲春日板
 弘化二乙巳年 改板

高橋數馬

地

